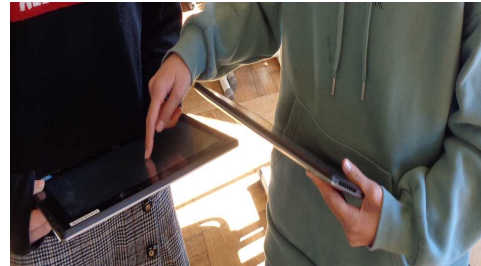


コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を踏まえ、言語の背景にある文化や相手への配慮をしながら、自分が本当に伝えたいことを伝え合い、理解し合う能力の育成を目指す。



| 領域 | 聞くこと | 話すこと（やり取り） | 話すこと（やり取り） |
|----|---|--|--|
| 内容 | 児童生徒の興味・関心や、学んだ内容に関連のある実際の音声を教材として使用し、目的に合わせて個別のリスニング練習をする。 | 「おすすめの国を紹介しよう」の単元ではおすすめの国について図書館やインターネットで調べたことを基にプレゼンテーションソフトを活用し資料を作成する。その資料を相手に見せながらおすすめの国を紹介する。 | インターネットを利用して区内や遠隔地の学校または海外の学校と児童生徒が互いに自分の住む地域や、学校のことなどを互いに紹介し合う。 |
| 効果 | 音声の速度を変えたり、繰り返し再生したりするなど、児童生徒が自分の目的に応じて活用することができる。 | 自分が本当に伝えたいことを効果的に伝え合うために、自分が作成した資料を見せてわかりやすく伝え合うことができる。 | 国内外の距離に関係なく、画面を通して、直接双方向で会話をするを通して、多様な英語や異なる文化に触れることができる。 |

外国語教育におけるICT活用の利点

- ①【言語活動・練習】→児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化につながる。
- ②【交流・遠隔授業】→遠隔地・海外とのコミュニケーションを図る。
- ③【コンテンツ・授業運営】→写真、プレゼンテーションソフト等を使用することで、興味・関心学習の質を高め、言語活動中心の授業展開が可能となる。



外国語の指導におけるICTの活用についての参考資料
(文部科学省)

自分自身や友達の発表を振り返り、考えを再構成する

話すこと（発表）

- ・ テーマに沿って発表するために準備段階で 1 人 1 台端末を用いて自分や友達の発表を録画する。
- ・ 視聴後、表情、ジェスチャー等の態度面について振り返る。さらに、グループ内でプレ発表の活動を行い、他の人の意見を参考に、内容について付け加えたい点や工夫したい点を端末内に記録する。



○効果

自分や友達の発表の姿を可視化することで、発表を振り返り、「もっと相手を意識して伝えたいな」「こういう内容も付け加えると伝わりやすくなるかな？」等、より良い発表に向けて、具体的な改善案を探ることができる。